

皆様、本日の危機管理対策セミナー出席、大変お疲れ様でございます。はじめに、この大事なセミナーを準備し主催していただきましたJBC危機管理対策委員会の成清委員長をはじめ、委員会に携わっておられます皆様に、深く御礼申し上げます。

さて、本日のテーマは危機管理対策ということで、皆さん、普段から「安全」に気を付けていらっしゃるでしょうか。今日の新聞では、メトロの駅周辺における自転車盗難が相次ぎ問題になっているという記事がございました。治安がこの数年で悪化しているのでしょうか。海外の生活では、「安全」についてアンテナを高くするのがまず大事です。その「安全」ということで、ひとつ、つい最近身近でおきた事例をご紹介しますと思います。当地ドバイに来て十日目の若者が、夜中に当地在住10年以上になる方から電話で呼ばれ、自転車で目的地に向かったところ、途中で乗用車とぶつかり、頭を打った他、体や足に怪我をしました。幸い軽症で済み、命に別状は有りませんでした。この事故、ドバイを含め海外特有の幾つかの注意点があると、改めて思い知らされました。

1. 「夜は危ない」：ドバイは一大観光都市。治安も御案内のように周辺国と比較すれば安全と言えましょう。一方、私が直接見聞きしているだけでも、この1年間に、夜中に、ドバイモールの周辺でさえ日本人が事件・事故の被害に遭う事例が複数起こっています。夜はどここの国でも危ないです。

2. 「道路は危ない」：運転される方は肌感覚で承知でしょう。されない方であっても身の危険を感じたことがあると思います。こちらのドライバーは、日本人の感覚からすると極めて不注意、且つ交通ルールを軽視しています。事故が起きない方が不思議と思わなければなりません。

3. 「慣れないうちは危ない」：当地に来訪して未だ日が浅く、社会の事情に慣れないうちは、非常に危ない。私も運転しますが、2年経た今でも、高速道路では常にヒヤヒヤしています。

4. 「慣れた時こそ危ない」：在住長い方は、当地に十分慣れて、夜中に自転車で移動することに異論を挟みませんでした。当地事情に慣れて、ついつい安全感覚が鈍り、安全に関する意識が疎かになった時こそ危ないと言えましょう。ましてや、当地に来たばかりで慣れない人を巻き込むことは、あってはなりません。

さて、本日は、当地の安全事情に加え、周辺国の安全事情、そしてサイバーセキュリティについてもお話があります。この周りでは、アフガニスタン、シリア、イエメンが国全体で退避勧告。そして、イラク、イラン、パキスタンでは、国の一部地域に退避勧告が発せられ、ビジネスに際しての周辺国安全情報は極めて重要です。また、この夏以降、サイバー詐欺の記事が紙面を賑わしておりますが、私の周りでも、少なくない数の方が被害あるいは被害未遂にあっています。サイバーセキュリティは仕事でも、プライベートでも重要です。

こういうことだからこそ、身の安全を守るため、確かな情報と正しい知識を常にアップデートすることが必要です。そういった背景も踏まえ、今般JBCにてこのセミナーが開催され、邦人社会の安全対策を強化して頂くことを感謝申し上げます。本日は、私も、しっかり勉強させていただきますので、講師の皆様、よろしく願いいたします。